

# 当院は医学の発展のため 2020年10月14日 第1版 臨床研究に参加しています

当院は、神奈川県内科医学会・高血圧腎疾患対策委員会による「2型糖尿病症例における GLP1 受容体アナログ薬投与による腎への影響についての後ろ向き調査研究」を行います。

## 研究の背景

糖尿病の血糖降下薬の一つである GLP1 受容体アナログ薬は、海外の研究にて、アルブミン尿低下作用を含めた腎臓保護作用があることが明らかになりました。神奈川県内科医学会高血圧・腎疾患対策委員会では、これまでにかかりつけ患者において SGLT2 阻害薬に腎臓保護作用があることを報告してきましたが、GLP1 受容体アナログ薬が同じように腎臓に好影響を与えるかは臨床の現場では十分に検討されていません。

我々は、2型糖尿病症例における GLP1 受容体アナログ薬投与による腎への影響の調査し、今後の医学発展に寄与したいと考えます。

## 目的

2型糖尿病症例における GLP1 受容体アナログ薬の腎への影響についての後ろ向き調査

## 組織

本調査は神奈川県内科医学会会員もしくはそれに所属する医療機関の医師が行います。

## 調査方法

2020年7月1日から2020年10月31日までに継続して受診し、GLP1 受容体アナログ薬を使用している症例において、それを開始した時点と、調査時点の検査結果につき調査を行います。

なお、日本で使用可能な GLP1 受容体アナログ薬はいくつかあり、その商品名は以下となります。ビクトーザ®、バイエッタ®、リキシミア®、トルリシティ®、ビチュリオン®、ゾルトファイ®

## 本調査の結果より期待されること

2型糖尿病症例における GLP1 受容体アナログ薬の腎への効果を、実地医家によって明らかにすることにより、GLP1 受容体アナログ薬がより適正に使用されることへ寄与します。

## 倫理的配慮

この研究は、日本医師会倫理審査委員会で承認された研究です。調査用紙には参加していただいた患者さんが誰であるかを明らかにする情報は含まれません。もしこの調査にご自分のデータが使われることを拒否される場合にはお申し出下さい。その場合、あなたの診療情報は使用しませんし、拒否されても診療上不利になることはありません。本調査研究の実施計画書の詳細は神奈川県内科医学会のホームページにて掲載されています。閲覧、入手ご希望の方は神奈川県内科医学会のホームページにて可能ですので、ご確認ください。

## 研究期間

2020年11月19日から2022年10月31日までです。

上記内容および本研究につき、ご質問、ご相談のある患者さんは、医師が対応しますのでお申し付けください。

連絡お問い合わせ先：横浜市立大学附属病院 腎臓・高血圧内科

研究責任者 田村 功一

電話番号 045-787-2800